

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2007年 7月

平成18年度規格部会報告

規格部会 (ISO/TC61、ISO/TC138 及び電気材料安全関係) は、日本工業標準調査会 (JISC) 標準部会策定の「平成 18 年度標準化政策」及び国際標準化戦略目標に則り、関係機関・団体・企業との一層緊密な連携のもと国内外の標準化活動を推進している。ここでは、重点課題に沿って、その内容について紹介する。

1. 国際幹事国業務の充実

国際幹事国引き受け件数の増加を目標に掲げてきた。H18年3月に従来からの ISO/TC 61/SC 11(製品)、SC12(熱硬化性樹脂)に加え、AFNORの辞退を受けて、新たにSC13(複合材および強化繊維)の国際幹事国業務を引き受け、引き受け件数3件から4件となり、目標を前倒しで達成できた。当面は、4件体制で内容を一層充実させながら遂行していく。

2. 日本発の国際規格の増加

平成18年度はTC61(プラスチック)で175件、TC138(プラスチック管・継手)では115件を審議した。特にTC61は、日本発提案件数比率が24%(日本平均は7.2%)と極めて高比率を維持している。平成19年度も、ほぼ昨年同数の審議を予定している。

平成18年度の日本発の国際標準提案は、新規1テーマと継続9テーマの計10件の進展を図ってきた。案件は以下の通り。

- ① 発泡プラスチック試験における状態調節条件の改正(新規)
- ② 複合材に関する火災安全評価規格の提案(継続)
- ③ 硬質塩化ビニルシート規格の改正(継続)
- ④ 接着接合木製品の試験方法(継続)
- ⑤ フィルム及びシート - 水蒸気透過度試験方法の提案(継続)
- ⑥ PE試験片の作り方及び性質の求め方規格の改正(継続)
- ⑦ PP試験片の作り方及び性質の求め方規格の改正(継続)
- ⑧ PPE材料試験方法規格の提案(継続)
- ⑨ フィルム及びシートーガス透過度試験方法の改正(継続)
- ⑩ PPE材料試験方法の改正(継続)

この内4件は、FDISまで進展を見込まれ、平成19年度は、残りの6件と新たな新規提案1件とを含めて7件の日本提案の更なる進展を図っていく。

3. 研究開発テーマの発掘－基準認証研究開発テーマの推進

①プラスチックリサイクルの標準化:昨年度まで欧米の関連規格の開発動向を調査した。平成19年度は、再生PETの国際規格作りを優先して進める。

②RPFのJIS原案作成調査:平成19年度の前半にJIS完成を目指す。財団法人日本容器包装リサイクル協議会が作成予定の「プラスチック製容器包装サーマルリカバリー施設ガイドライン」とも歩調をあわせ、矛盾のないように進めていく。

4. 国際会議活動－ISO/TC 61 横浜会議開催

日本がホスト国となり、平成18年9月16日～9月22日の一週間、横浜でISO/TC 61の国際会議を開催

した。20 カ国から 263 名が参加し、日本からは 135 名が参加した。ISO/TC 61 としては初めての試みとして、全会議室にプロジェクターを配置し、効率よく議論を進める事が出来、非常に好評であった。

日本は、参加者が多かっただけでなく、国際議長、国際幹事、コンベナー及び国際標準提案を含めた日本提案のプロジェクトリーダーを数多く務め、会議への非常に高い寄与を示してきた。

5. その他—JIS 原案作成活動

平成18年度の JIS 原案作成は、I 期(H18 年4月～H19 年3月)5 規格、II 期(H18 年 8 月～H19 年 7 月)3 規格及びIII 期(H18 年 12 月～H19 年 11 月)7 規格を取り組んでいる。

第 I 期 5 委員会、5 規格(改正 5 件)

- ① 力学的性質試験法 改正 1 件
- ② 比較可能なデータ取得と揭示 改正 1 件
- ③ 試験片の作製 委員会 改正 1 件
- ④ フィルムシートの水蒸気透過度 改正 1 件
- ⑤ 強化プラ試験法 制定 1 件

第 II 期 3 委員会、3 規格(制定 2 件、改正 1 件)

- ① 強化プラ試験法 制定 1 件
- ② 燃焼試験法 改正 1 件
- ③ 生分解性プラスチック試験法 制定 1 件

第 III 期 3 委員会、7 規格(制定 4 件、改正 3 件)

- ① 耐候性試験法 委員会 改正 2 件
- ② 硬質ポリ塩化ビニル板 改正 1 件
- ③ 接着剤試験方法 制定 4 件

以上